

2022年7月5日

ウェザーニュース、「ゲリラ豪雨」の予想発生回数を47都道府県別に発表
ゲリラ豪雨の総発生回数は昨年比1.4倍、7月後半から増加
 ～西日本を中心に暖かく湿った空気の影響を受けやすく、発生回数が増加～

株式会社ウェザーニュース(本社:千葉市美浜区、代表取締役社長:草開千仁)は、突発的かつ局地的に激しい雨や落雷をもたらす「ゲリラ豪雨」に対し、事前対策への意識を高め被害軽減につなげるため、「ゲリラ豪雨傾向 2022」を発表しました。7～9月のゲリラ豪雨は、全国でおよそ90,000回発生する予想です。昨年比1.4倍、過去5年平均比1.9倍で発生回数が増える予想です。暖かく湿った空気が流れ込みやすい西日本を中心に昨年よりも発生回数が増えて、昨年比で3倍近くとなるところもある予想です。7月後半から9月前半にかけて発生しやすい時期が続く見込みです。随時最新の雨情報をご確認ください。

毎年、突然の激しい雨や落雷による被害が全国各地で発生しています。ウェザーニュースでは、少しでも被害を減らすべく、継続的に情報を発信していきます。

「ゲリラ豪雨傾向 2022」一般向けページはこちら

ウェザーニュースウェブサイト「ゲリラ豪雨傾向 2022」
<https://weathernews.jp/s/topics/202207/040245/>

◆ ゲリラ豪雨発生傾向 2022

<発生回数:全国の総発生回数は昨年比1.4倍>

2022年7～9月のゲリラ豪雨(※1)は、全国でおよそ90,000回発生する予想です(※2)。発生総数はおよそ60,000回発生した昨年と比べると1.4倍、過去5年平均と比べると1.9倍で、多くなる見込みです。

西日本を中心に昨年よりも発生回数が増えて、佐賀県(2,000回)、大分県(2,300回)など昨年比で3倍近くとなるところもある見込みです。その他の人口が多いところでは、東京で800回、愛知で1,000回、大阪で400回となる見込みで、いずれも昨年並の回数となる予想です。

雨雲の発生は山沿いがメインですが、平野部(都市部)にも流れ込んだり、直上で発生したりする場合があります。一回のゲリラ豪雨で、激しい雨による冠水や浸水、落雷による停電や交通機関のまひなど様々な被害が懸念されます。随時最新の雨情報をご確認ください。

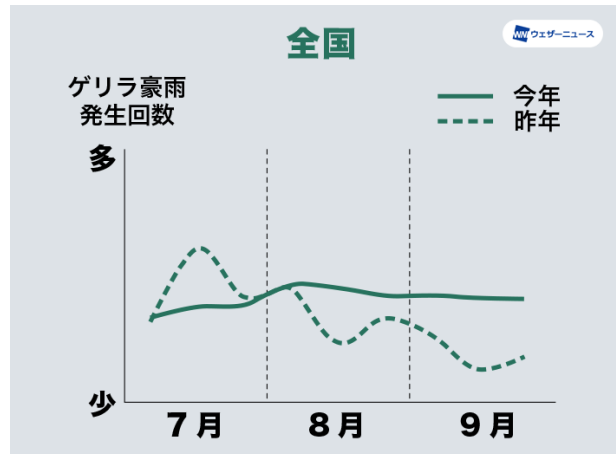


<発生時期:7月後半から9月前半にかけて多く発生>

ゲリラ豪雨は、太平洋高気圧周辺の湿った空気が流れ込む時や、上空の寒気が通過し大気の状態が不安定になる時に発生しやすい現象です。今シーズンのゲリラ豪雨は、7月後半から9月前半にかけて発生しやすい時期が続く見込みです。

9月前半にかけて日本付近は高気圧に覆われて晴れる日が多くなる予想です。ただ、西日本を中心に高気圧の周囲をまわる湿った空気の影響や、地表面の昇温の影響を受けて、ゲリラ豪雨が発生しやすくなります。日差しが届いていても、天気急変に注意が必要です。

9月後半からは秋雨前線や台風の影響を受けて、突発的かつ局地的なゲリラ豪雨の発生は徐々に減少していき、ゲリラ豪雨のシーズンも終息に向かう見通しです。



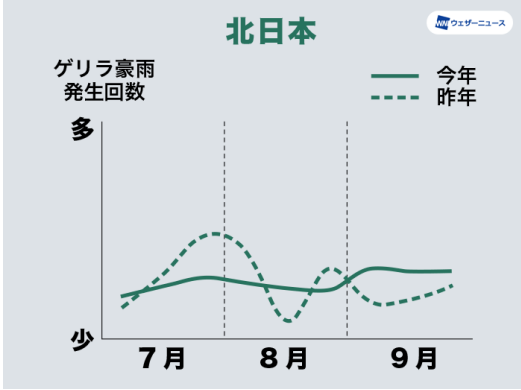
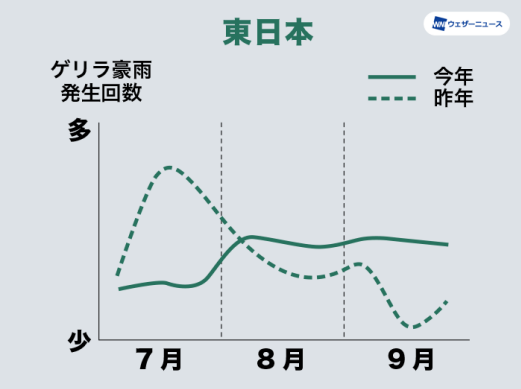
7~9月のゲリラ豪雨発生傾向

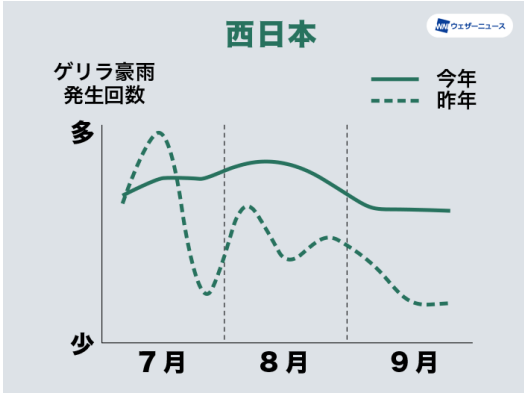
<要因:暖かく湿った空気が入りやすい、西日本で発生回数が増加>

今シーズンは、太平洋高気圧が日本の北に張り出しやすいため、高気圧の周囲をまわる暖かく湿った空気が、西日本に入りやすい状況となります。そのため、ゲリラ豪雨は昨年に比べて、西日本で多くなる予想です。



◆ エリア別のゲリラ豪雨傾向

<p>北 日 本</p>	<p>北日本のゲリラ豪雨の総発生回数は、約 20,000 回の予想です。14,016 回発生した昨年と比べると、およそ 1.2 倍で同程度です。発生ピークは 7 月下旬～8 月上旬、9 月上旬の見込みです。</p> <p>今年は高気圧の縁辺から流れ込む湿った空気や日中の昇温の影響で、太平洋側を中心にゲリラ豪雨の発生回数が増える見込みです。宮城県の発生回数は昨年比 1.5 倍の約 1,200 回、福島県は昨年比 2.2 倍の約 5,400 回を予想しています。</p> <p>8 月は湿った空気や日中の気温上昇により大気の状態が不安定になり、ゲリラ豪雨の発生回数が増えそうです。特に発生ピークとなる 7 月下旬～8 月上旬、9 月上旬は天気の急変に十分ご注意ください。9 月後半からは台風の影響を受ける可能性があるほか、次第に秋雨前線や移動性の高気圧の影響を受けるため、ゲリラ豪雨の発生回数は減少していきます。</p>	 <p style="text-align: center;">北日本</p> <p style="text-align: center;">ゲリラ豪雨発生回数</p> <p style="text-align: right;">— 今年 - - - 昨年</p>
<p>東 日 本</p>	<p>東日本のゲリラ豪雨の総発生回数は、約 25,000 回の予想です。20,578 回発生した昨年と比べると、およそ 1.2 倍で同程度です。今年は 8 月からゲリラ豪雨が発生しやすく、特に 8 月上旬から 9 月上旬にかけて多くなりそうです。甲信、東海では昨年とほぼ同程度となりますが、関東では発生回数が増える見込みです。茨城県の発生回数は昨年比 2.7 倍の約 2,000 回、神奈川県は昨年比 2.4 倍の約 800 回に増加する予想です。東京都は約 800 回、愛知県は約 1,000 回となる見込みで、昨年並の発生回数となりそうです。</p> <p>8 月は湿った空気や日中の気温上昇により大気の状態が不安定になり、ゲリラ豪雨が発生しやすくなります。発生が多くなる 8 月上旬～9 月上旬は天気の急変に十分ご注意ください。9 月後半からは台風の影響を受ける可能性があるほか、次第に秋雨前線や移動性の高気圧の影響を受けるため、ゲリラ豪雨の発生回数は減少していきます。</p>	 <p style="text-align: center;">東日本</p> <p style="text-align: center;">ゲリラ豪雨発生回数</p> <p style="text-align: right;">— 今年 - - - 昨年</p>

<p>西日本</p>	<p>西日本のゲリラ豪雨の総発生回数は、約 40,000 回の予想です。24,243 回発生した昨年と比べると、およそ 1.8 倍に増加します。発生ピークは 8 月上旬～中旬の見込みです。</p> <p>九州や中四国を中心にゲリラ豪雨の発生回数が多くなる見込みです。佐賀県の発生回数は昨年比 3 倍の約 2,000 回、大分県は昨年比 2.7 倍の約 2,300 回を予想しています。大阪府は約 400 回となる見込みで、昨年並の発生回数となりそうです。</p> <p>8 月は湿った空気や日中の気温上昇により大気の状態が不安定になり、ゲリラ豪雨が発生しやすくなります。特に発生ピークとなる 8 月上旬～中旬は天気の変化に十分ご注意ください。9 月後半からは台風の影響を受ける可能性があるほか、次第に秋雨前線や移動性の高気圧の影響を受けるため、ゲリラ豪雨の発生回数は減少していきます。</p>	
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------

※1 「ゲリラ豪雨」について

ウェザーニュースでは減災を目指す上でより広く認知いただくため、一般あるいはメディアでよく使用されている「ゲリラ豪雨」を局地的大雨を指す言葉として使用しています。

※2 「ゲリラ豪雨」発生回数の求め方

「ゲリラ豪雨」をもたらす雨雲・雷雲は、前線に伴って移動してくる雨雲とは異なり、“突発的”かつ“局地的”に発達するのが特徴です。また、限られた数しか設置されていないアメダス(全国約 1,300 か所)では、全ての降雨を正確に観測することは困難です。そこで当社では、スマホアプリ「ウェザーニュース」のユーザーから寄せられた“ザーザー”以上の降雨報告(※3)と、その時の気象データの分析結果から、ユーザーがゲリラ豪雨と感じる雨の時間変化の基準を求め、求めた基準をもとにゲリラ豪雨をカウントしています。

<基準>

11mm/h 以上の降水強度を持つ雨について

120 分前までの降水強度が以下の基準値(表 1)に当てはまる事例を対象とする

時間	閾値
10 分前	14mm/h 以下
20 分前	3mm/h 以下
30～40 分前	1mm/h 以下
50～120 分前	0mm/h 以下

表 1: 「ゲリラ豪雨」判定基準値

※3 降雨報告について

スマホアプリ「ウェザーニュース」を通し、“ポツポツ”、“パラパラ”、“サー”、“ザーザー”、“ゴォー”の 5 段階で報告されます。

◆ 都道府県別のゲリラ豪雨傾向

エリア	都道府県	2022年			2021年(回)	過去5年平均(回)
		発生回数	2021年比(倍)	過去5年平均比(倍)		
北日本	北海道	5,000	1.0	1.2	4,869	4,023
	青森県	1,300	1.4	1.9	931	682
	秋田県	1,300	0.7	1.3	1,891	1,014
	岩手県	2,100	1.3	2.0	1,647	1,068
	山形県	1,200	0.8	1.3	1,415	943
	宮城県	1,200	1.5	1.6	788	743
	福島県	5,400	2.2	2.6	2,475	2,063
東日本	茨城県	2,000	2.7	2.7	753	738
	栃木県	2,000	1.5	1.6	1,373	1,259
	群馬県	1,800	1.4	1.7	1,272	1,062
	千葉県	1,100	1.7	1.7	650	636
	東京都	800	1.0	1.1	807	748
	埼玉県	1,200	2.2	2.3	555	527
	神奈川県	800	2.4	2.3	332	348
	山梨県	700	1.1	1.3	612	556
	長野県	2,200	0.8	1.6	2,602	1,410
	静岡県	1,500	1.0	1.3	1,540	1,182
	愛知県	1,000	0.8	1.0	1,275	1,007
	岐阜県	2,200	0.8	1.2	2,613	1,900
	三重県	1,200	0.9	1.1	1,388	1,125
	新潟県	2,300	1.2	1.4	1,998	1,678
	富山県	1,400	1.5	2.0	960	712
	石川県	1,200	1.2	1.9	978	622
	福井県	900	1.0	1.5	870	589
西日本	滋賀県	700	1.0	1.1	701	662
	京都府	1,400	1.5	1.7	914	821
	奈良県	900	1.0	1.3	890	714
	兵庫県	2,500	1.7	2.0	1,511	1,250
	大阪府	400	1.2	1.4	342	293
	和歌山県	900	1.0	1.3	928	705
	鳥取県	1,200	1.8	2.5	679	487
	島根県	2,500	2.3	2.7	1,110	922
	岡山県	2,100	2.0	2.0	1,070	1,068
	広島県	2,100	1.5	1.5	1,445	1,385
	山口県	3,300	2.5	3.5	1,325	944
	香川県	700	2.2	2.5	319	282
	徳島県	1,200	1.7	2.3	710	511
	愛媛県	1,900	2.1	2.4	926	776
	高知県	2,700	2.3	3.1	1,175	882
	福岡県	3,800	2.6	5.3	1,480	718
	大分県	2,300	2.7	3.5	841	654
	佐賀県	2,000	3.0	6.9	659	291
	長崎県	2,700	1.8	2.9	1,484	924
	熊本県	2,400	1.6	2.6	1,493	936
宮崎県	2,300	1.5	2.0	1,574	1,131	
鹿児島県	3,400	1.3	1.8	2,667	1,924	
南西諸島	沖縄県	5,700	1.2	1.7	4,678	3,437
全国(合計)		90,900	1.4	1.9	63,515	48,352

* 本傾向は、ウェザーニューズの長期予報と類似年の過去データを元に、統計的に算出したものです。

* 発生回数は7月1日～9月30日の期間で算出しています。